

全国から1200人が集まり盛大に開催された全国不動産会議。中古流通活性化やスマートフォンシティなど話題のテーマが議論された

中古流通拡大に向け重視すべき事項を指摘するパネリスト



小沢理市

土交通省不動産課長の清瀬和彦氏、ネットワーク88代表の幸田昌則氏、九州・住宅流通促進協議会事務局長の工藤

英寿氏。

不動産の不思議 不動産のふしぎ 不動産の不思議 不動産のふしぎ

明海大学 不動産学部

不動産の不思議

第6回

学生たちの視点と発見

【学生の目】

11年3月の地震による液状化被害を受けるまで、浦安市は住みたい街調査で常に上位にランクされていた。東京駅からの時

震災復興と不動産

地震当時、シンボルロードに近い

差がなく通りやすいこと、第3にライフラインが地中化されていて電柱がなくて景観が保たれていることだ。地中化は景観だけでなく、防災面でも大きな役割を果たす。震災で大規模な液状化が起きたが、電柱の倒壊で通行が妨げられるなどの被害と無縁だった。断線した送電線が火災を起す心配もない。



液状化被害を受けたシンボルロード

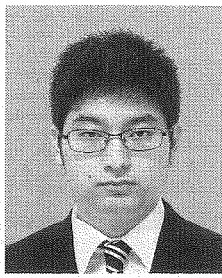
間距離が新宿駅と変わらない利便性に加え、しっかりとした街づくりが行われ、南国情緒たっぷりの景観も魅力だ。

代表例がシンボルロードだ。JR

ライフラインの地中化が必要

安市で起きたことを繰り返さないため、景観と安全が両立する液状化対策

新浦安駅から東京湾に向かって真っすく南に伸び、私が通う明海大学はその途中にある。シンボルロードの魅力は3つある。第1に歩道が広く歩きやすいこと、第2に道路に高低



座安立

不動産学部4年

浦安市入船4丁目に住んでいた私は、一方で、下水管の復旧工事のため、トイレ、風呂など水の使用を1カ月間禁止された。この経験で私はライフラインの大切さを痛感した。ライフラインは強くなければならぬ。また壊れた場合もすぐに直せるよう工夫すべきだ。ライフラインの復旧が遅れると、結局は住めない。電線の地中化にとどまらず、ガスや上下水も共同溝に収納していれば、

浦安市人船4丁目に住んでいた私... われた。まだ以前ほどきれいとは言えない状態(写真参照)だし、大きく育った街路樹が工事のために伐採されたのは残念だが、景観に加え安全なインフラを持つ街として復興しようとしている。今回、ライフラインの安全は共同溝ではなく、液状化対策で確保したが、現実的な解決だ。浦安市は再び、住みたい街調査で上位にランクされよう。

国は20年東京オリンピックまでた街づくりが急務だ。

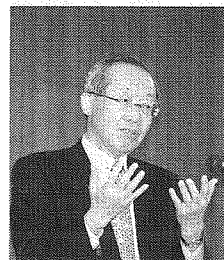
総合・政策

2003年以來の超高層マンション新資料集

超高層マンション資料集

— 2013年版 —

I. 竣工データ編 II. 分譲実績編



幸田昌則氏

会場には不動産業者を中... に約1200人が参加し、熱心に聴講した。特に関心を集めたテーマの一つがインスペクション。講演会終了後の質疑応答でも、「様々な団体や業が実施しているようだが、統一した基準や概念はあるか」といった疑問が投げかけられた。これに対し、清瀬不動産課長は国土交通省が6月